

監
一〇八
五七八
十五
七
十三

局長

書
監
理
官



一 關於茲東北電燈株式會社卜電力帶給契約締
結ニ關スル件

東北振興電力株式會社

標記件別紙通提出有之候系及供覽候

概要

一 南ハニ電力供給ヲ為スカタメニハ東北管灯ノ
送電線ヲ通過セシメル為東北管灯ニ託送セント
スルモノナリ

一 供給地矣

振電、東北管灯向

東北管灯里込局受電所

東北管灯 一南ハ向
一南ハ台町受電所

一 供給電力

三者向常時 二五〇kW

一 供給期間

自昭和十五年二月一日
至昭和二十四年正月三十日

一 電気料金

三者向 一kWhニ付 一圓六厘五毛

一 東北管灯電力送電料金年

一kWhニ付

一圓 (振電負担)

内閣東電第一五二號

昭和十四年五月二十四日

内閣東北局長 宇都宮 孝平

東北振興電力株式会社社長 横山 助成 殿

電力供給ニ關スル契約締結認可ノ件

貴社電力供給ニ關スル契約締結ニ際シテハ豫メ内閣總理大臣ノ認可ヲ
申請相成居候處事業計畫ニ於テ其ノ概要ヲ具シ認可ヲ受ケタルモノニ
限リ該契約締結後運漕ナク之ヲ内閣總理大臣ニ報告相成ルコトトシ認
可ハ時ニ要セザルコトト相成候條爾今右ニ依リ御取扱相成度此段及通
牒候

追テ異例ニ屬スル供給條件ニ依リ契約ヲ締結セントスル場合ハ豫メ
當局ニ御打合相成度申添候

内閣

裏面白紙

裏面白紙

内閣東監第一五二號

昭和十五年三月十二日

内閣東北局長 宇都宮 孝平

東北復興電力株式会社社長 横山 助成 殿

電力需給ニ關スル契約締結報告ノ件

昭和十四年五月二十四日附東監第一五二號ヲ以テ通牒致置候電力需給
契約締結ニ關スル報告ノ件ハ左記事項ヲ具シ御提出相成度爲念及通牒
供

記

- 一、需給契約ノ概要
- 一、事業計畫トノ對照
- 一、電氣料金算出説明書
- 一、契約者ノ供給先ノ電力用途及電氣料金
- 一、電力需給契約書寫

内閣

五 一八

電第一〇四號

昭和十五年六月十八日

東北振興電力株式會社

社長 横山 助

成



內閣總理大臣 米 內 光 政 殿

一 關町並東北電燈株式會社ニ對シ左記要領ノ電力需給契約締結 致候
二 付昭和十四年五月二十四日附內閣東監第一五二號御通牒ニ基キ此
段及御届候
追而昭和十五年三月十二日附內閣東監第一五二號御通牒事項ノ内
「契約者ノ電力供給先、供給先ノ電力用途及電氣料金」ニ付テ各目
下調査中ノモノ有之ニ付追而御届可仕候

東北振興電力株式會社

添 附 書 類

- 一、需給契約ノ概要
- 二、事業計畫卜ノ對照
- 三、電氣料金算出説明書
- 四、電力需給契約書及附帶覺書

(日本標準規格B4判)

記

一、需給契約ノ概要

本契約ハ一關町へ電力供給ヲ目的トスルモノトス。一關町ハ當社ノ主要電力供給地點ト離隔シ居ル關係上當社ヨリ直接電力ヲ供給センガ爲ニハ目下工事中ニ係ル送電線路北上線(六六、〇〇〇ボルト)ノ途中分岐ニヨル外ナキ處コノ方法ニヨルコトハ技術的ニモ經濟的ニモ相互ニ適當ナラザル點アリ然ルニ當社ト黒澤尻ニ於テ需給關係アル東北電燈會社ハ黒澤尻ヨリ一關附近ヲ經過シ仙臺ニ至ル送電線(三三、〇〇〇ボルト)ヲ所有シ居リコノ送電線ヲ利用スルトキハ一關町へ容易ニ電力ヲ供給スルコトガ可能ナルニ付コノ方法ニヨルコト、シ當社ハ一關町ノ所要電力二五〇キロワットヲ東北電燈會社へ供給シ東北電燈會社ハコノ電力ヲ自己ノ送電線路ヲ通過セシメ一關町へ供給スルコトニ契約ヲ締結セル

東北振興電力株式會社

モノトス

供給地點

弊社、東北電燈間
 岩手縣和賀郡黒澤尻町大字町分第二地割二十五番
 地東北電燈會社黒澤尻受電所

東北電燈、一關町間

岩手縣西磐井郡一關町字臺町一一六番地一關町臺
 町變電所

供給電壓

弊社、東北電燈間
 標準三一、五〇〇ボルト

東北電燈、一關町間

標準三〇、〇〇〇ボルト

供給電力

三看間常時電力最大二五〇キロワット

(日本標準規格同列)

供給期間 送電開始ノ日ヨリ昭和二十四年十一月三十日迄

電気供給料金率 弊社東北電燈間及東北電灯一開間共一キロワット
時ニ付 金一錢六厘五毛

東北電灯ノ電力
輸送料金率 一キロワット時ニ付 金一厘(弊社負擔)

料金更改期 昭和十七年十二月一日ヨリ爾後滿三ケ年毎

三、事業計畫トノ對照

昭和十四年度事業計畫書		今回契約
供給電力	常時電力最大一五〇キロワット	二五〇キロワット
供給地點	一開町 一開變電所	上記變電所 上 全
電気料金率	常時電力一キロワット時ニ付 金一錢六厘五毛	同上
東北電燈會社ニ託送		同上

東北振興電力株式會社

三、電気料金算出説明書

昭和十四年十月二十六日附内閣東監第一三二號御認可昭和十四年度事業計畫ニ於テハ「昭和十四年度以降需用電力ニ對シ標準電気料金ノ設定ニ關スル説明書」ノ通

昭和十四年度供給開始電力ノ標準料金ヲ

常時電力三万「ボルト」渡負荷率六〇%ニ於テ一錢四厘五毛ト定メタル處ナルモ爾後諸建設工事費ノ昂騰ニ伴ヒ電気料金値上ゲノ巴ムナキニ至リ昭和十四年十二月二十七日附電第四六二號申請事業計畫書ニ於テハ昭和十四年度以降ノ標準電気料金ヲ左ノ通定メタル處ニシテ今回届出ノ料金ハ其ノ基準ニヨリタルモノトス

常時電力三万「ボルト」渡負荷率六〇%ニ於テ一錢六厘五毛東北電燈ノ電力輸送料金率ハ左記計算ニ依リ算出シタルモノトス

(日本標準規格同列)

東北電燈株式會社仙臺連絡送電線

亘長 185 Km 但託送部分ノ黑澤尻一ノ間間約 45 Km
建設費 401,622 圓 (昭和 11 年上半期現在ノ帳簿價格)

1. 總括送電原價

送電費	4,000 圓	杆當リ 52 圓ト査定ス
減價銷却費	4,645 圓	銷却率 1.156 %
合利	24,097	年 6 分
計	32,740	

之ヲ託送部分亘長ノ割合ニ按分スルヤ

$$32,740 \div 185 \times 45 = 11,868 \text{ 圓}$$

2. 託送料總括

本送電線送電容量ヲ 2,000 Kw トシ之ヲ弊社託送電力

東北振興電力株式會社

常時 250 Kw

$$= \text{按分シ} \quad \frac{11,868 \times 250}{2,000} = 1,483.25 \text{ 圓}$$

3. 圓當リ單價

年總託送電力量

$$\text{常時電力} \quad 250 \times 8,760 \times 0.6 = 1,314,000 \text{ kWh}$$

$$\text{故ニ} 1 \text{ kWh 當リ單價ハ} 1,483.25 \div 1,314,000 = 1.129 \text{ 圓}$$

$$\text{損失電力} \quad \text{約} 2 \% = 26,280 \text{ kWh 價值増ハ} \quad 0.55 \text{ 圓}$$

$$\text{故ニ託送料單價ハ} 1.129 + 0.55 = 1.679 \text{ 圓}$$

査定 1.00 圓

同電力需給契約書及附帶覺書別紙ノ通トス



電力需給契約書

一 關 町
東北電燈株式會社
東北振興電力株式會社

一 關町（以下一關ト稱ス）、東北電燈株式会社（以下東北電燈ト稱ス）及東北振興電力株式会社（以下振電ト稱ス）ノ三者間ニ電力需給ニ關シ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 振電ハ昭和十五年二月一日以降常時電力最大ニ五〇キロワットヲ東北電燈ニ供給シ東北電燈ハ之ヲ自己ノ送電系統内ニ通過セシメ一關ノ臺町變電所ニ於テ同量ノ常時電力ヲ一關ニ供給シ一關ハ之ヲ需用スルモノトス

東北電燈ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ依リ振電カ東北電燈ニ對シ供給スル電力ノ一部又ハ全部ノ送電ヲ爲シ得ザルトキハ其ノ減少電力ニ比例シテ東北電燈ハ一關ニ對スル需給電力ヲ減量シ又ハ供給ヲ停止シ得ルモノトス

第二條 前條所定ノ振電、東北電燈間ノ需給電力ハ昭和十五年一月二十三日附右兩者間契約ニ依ル需給電力ト併セ需給スルモノトス

第三條 電力需給地點、電氣方式、需給電壓、需給時間及送電上ノ責任分界點ハ左ノ通トス

振電東北電燈間

一、需給地點 岩手縣和賀郡黒澤尻町大字
町分第二地割二十五番地
東北電燈黒澤尻受電所

岩手縣西磐井郡一關町字臺町一一六番地

東北電燈一關間

一關ノ臺町變電所

二、電氣方式 交流三相三線式

交流三相三線式

三、需給電壓 標準三一、五〇〇ヴォルト

標準 三〇、〇〇〇ヴォルト

四、需給時間 毎日二十四時間

毎日二十四時間

五、送電上ノ責任分界點 第一號東北電燈黒澤尻受電所内振電ノ送電線引込口最
初ノ區分閉開器

第一號一關ノ臺町變電所内東北電燈ノ送電線引込口最
初ノ區分閉開器

第四條 東北電燈及一關ハ受電電力ノ各相ノ負荷ヲ平衡セシメ其ノ力率ヲ八〇パーセント以上ニ保ツモノトス若シ力率ヲ八〇パーセント以上ニ保チ得サル場合ハ其ノ原因ノ在ル側ニ於テ直ニ之カ改善ノ爲適當ノ設備ヲ爲スモノトス

前項ノ設備ヲ爲サス又ハ前項ノ設備ノ不充分ナルニ因リ電壓降下其ノ他負荷不能ノ状態ニ立到ルコトアルモ供給者ハ其ノ責ニ任セサルモノトス

第五條 電氣工作物ノ施設、維持並ニ其ノ費用ノ負擔ハ左ノ通トス

一、振電、東北電燈間責任分界點用區分開閉器
振電 電負擔

二、前號區分開閉器ヨリ東北電燈、一區間責任分界點用區分開閉器(該開閉器ヲ含マス)迄
東北電燈負擔

三、前號東北電燈一區間責任分界點用區分開閉器ヨリ負荷側
一 區負擔

第六條 第十條ノ料金計算ニ使用スル需給電力量ハ振電、東北電燈間需給電力量及東北電燈、一區間需給電力量共ニ第三條第一號ノ一關ノ臺町變電所内三〇〇〇〇ワット側ニ一關ノ費用ヲ以テ施設スル東北電燈及振電ノ承認ヲ得タル公認積算電力計ノ計量値ニ依ルモノトシ、毎月末日午後十二時三者立會ノ上計量スルモノトス
最大需給電力ノ決定ハ前項積算電力計ノ三十分間毎ノ讀ミノ二倍ニヨ

ルコトトシ需給電力ノ力率ハ前項ノ黒澤尻受電所及臺町變電所ノ計器ニ依リ測定スルモノトス

前二項ノ計器ニ故障ヲ生シ又ハ其ノ指示ニ誤差アルコトヲ發見シタルトキハ一關ハ週滯ナク完全ナル計器ト取換ヲ爲スモノトシ完全ナル計器ニ依ルコト能ハサル時間内ノ需給電力及需給電力量ニ付テハ其ノ都度當時ノ需給状態ニ依リ三者協議ノ上決定スルモノトス

第七條 一關、東北電燈間及東北電燈、振電間需給電力ニ付各需給當事者カ相手方ニ對シ互ニ保證スル責任需給電力量ハ每一ヶ月間ニ付第一條所定ノ電力ニ其ノ月ノ曆時數ヲ乘シテ得タルキロワット時數ノ六〇パーセントトス

第八條 需給電力料金率及東北電燈ノ電力輸送料金率ハ左ノ通トス

一、需給電力料金率 振電、東北電燈間及東北電燈一區間共ニ
一キロワット時ニ付金一錢六厘五毛

二、東北電燈ノ電力輸送料金率 一キロワット時ニ付金一厘

第九條 前條ノ需給電力料金率及電力輸送料金率ハ昭和十七年十二月一

日及爾後滿三ヶ年毎ニ更改シ得ルモノトス但シコノ場合ニ於テハ成ル可ク更改期日ノ六ヶ月位以前ヨリ三者之ガ協議ヲ開始スルモノトス

第十條 第六條ニ依リ計量又ハ算定シテ得タル其ノ月ノ需給電力量ニ第八條第一號所定ノ料金率ヲ乘シテ得タル金額ヲ其ノ月ノ需給電力料金トシテ一關ハ東北電燈ニ、東北電燈ハ振電ニ支拂フモノトシ振電ハ右需給電力量ニ第八條第二號所定ノ料金率ヲ乘シテ得タル金額ヲ電力委託輸送料金トシテ東北電燈ニ支拂フモノトス

一關ノ東北電燈ヨリ竝ニ東北電燈ノ振電ヨリノ其ノ月ノ受電電力量カ第七條所定ノ責任需給電力量ニ滿タサル場合又ハ全ク電力ヲ使用セサル場合ト雖モ右ノ責任需給電力量ニ第八條第一號ノ需給電力料金率ヲ乘シテ得タル金額ヲ一關ハ東北電燈ニ、東北電燈ハ振電ニ夫々支拂フモノトス

前二項ノ料金支拂期日ハ各計量ノ日ヨリ十日以内トス

第十一條 振電ハ渴水期ニ於ケル電力配給上ノ都合ニ依リ東北電燈ニ對スル毎一日ノ供給電力量ヲ三六〇〇キロワット時以上ノ範圍ニ於テ制

限スルコトヲ得ルモノトシ、東北電燈ハ之ト同時ニ一關ニ對スル供給電力量ヲ同様制限スルコトヲ得ルモノトス コノ場合ニ於テハ少クトモ二十四時間以前ニ毎時間ノ供給電力ヲ三者打合せノ上決定スルモノトス

第十二條 振電及東北電燈ハ電氣工作物ノ修理又ハ手入レノ爲毎月一回日出ヨリ日没ニ至ル間ノ十時間ヲ限り全部又ハ一部ノ送電ヲ停止スルコトヲ得ルモノトス コノ場合ニ於テハ少クトモ二十四時間以前ニ其ノ時間竝ニ電力ヲ三者打合せノ上決定スルモノトス

第十三條 送電上ノ責任分界點ノ電源側ニ於ケル事故其他受電者側ノ責ニ歸スヘカラサル事由ニ因リ東北電燈カ一關ニ對シ又振電カ東北電燈ニ對シ十分間以上ニ亘リ其ノ供給電力ノ全部又ハ一部ノ送電ヲ停止シタルトキハ之カ停止ヲ受ケタル受電者ト其ノ供給相手方トノ間ニ互ニ保證スル第七條ノ責任需給電力量ヨリ該減停電電力ニ減停電時間數ヲ乘シテ得タルキロワット時數ノ六〇パーセントヲ控除スルモノトス但シ第十一條ニ依リ減停電シタル電力ハ本條ニ於ケル減停電電力トシテ

認メサルモノトス

第十四條 一 關ノ受電電力カ第一條所定ノ電力ヲ超過シタルトキハ第十條第二項所定ノ其ノ月ノ責任需給電力量ノ計量ニ於ケル電力ヲ實際使用シタル最大電力ニ變更スルモノトス但シ振電及東北電燈ハ電力配給上ノ都合ニ依リ一關ノ超過使用ニ應セサルコトヲ得ルモノトス

第十五條 本契約ノ有効期間ハ送電開始ノ日ヨリ昭和二十四年十一月三十日迄トシ有効期間満了ノ一ケ年位以前ヨリ三者協議ノ上各異存無キトキハ之ヲ延長スルモノトス

第十六條 一 關、東北電燈及振電ノ内一者又ハ二者カ本契約ニ違背シタルトキハ他ノ二者又ハ一者ハ將來ニ對シ本契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトシ因テ生シタル損害ニ對シテハ違背者ニ於テ賠償ノ責ニ任スルモノトス

第十七條 本契約ノ實施上官公署ノ許可又ハ認可ヲ要スル事項ニシテ其ノ許可又ハ認可ヲ得ルコト能ハサルトキ及官公署ノ命令ニ依リ實施シ得サルモノヲ生シタルトキハ本契約ハ當該事項ニ付其ノ效力ヲ失フモノトス

ノトス

第十八條 左記各一ニ該當スル事由ニ依リ振電カ東北電燈ニ對シ又東北電燈カ一關ニ對シ供給電力ノ全部又ハ一部ノ送電ヲ停止スルコトアルモ爲ニ生シタル受電者側ノ損害ニ對シ賠償ノ責ニ任セサルモノトス

一、天災又ハ不可抗力

二、法律命令又ハ官廳ノ指圖

三、電氣工作物ノ故障及修理

四、其ノ他供給者ノ責ニ歸セサル事由

第十九條 一 關、東北電燈及振電ノ電氣技術者ハ何時ニテモ他ノ二者ノ本契約ト直接關係アル電氣工作物ヲ點檢シ、或ハ關係日誌ヲ閱覽シ得ルモノトス

第二十條 一 關、東北電燈及振電ハ他ニ合併シ或ハ本契約ト關係アル事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スル場合ハ本契約ヲ承繼者ニ承繼セシメ且承繼者ノ義務履行ヲ相手方ニ保證スルモノトス

第二十一條 一 關、東北電燈及振電ハ本契約ノ履行ニ付協議ヲ必要トス

ル事項ヲ生シタルトキハ共存共榮ノ趣旨ニ基キ誠意ヲ以テ之カ解決ニ
努ムルモノトス

右契約ノ證トシテ本書三通ヲ作成シ各自其ノ一通ヲ保有スルモノトス
昭和十五年一月二十三日

一 關 町

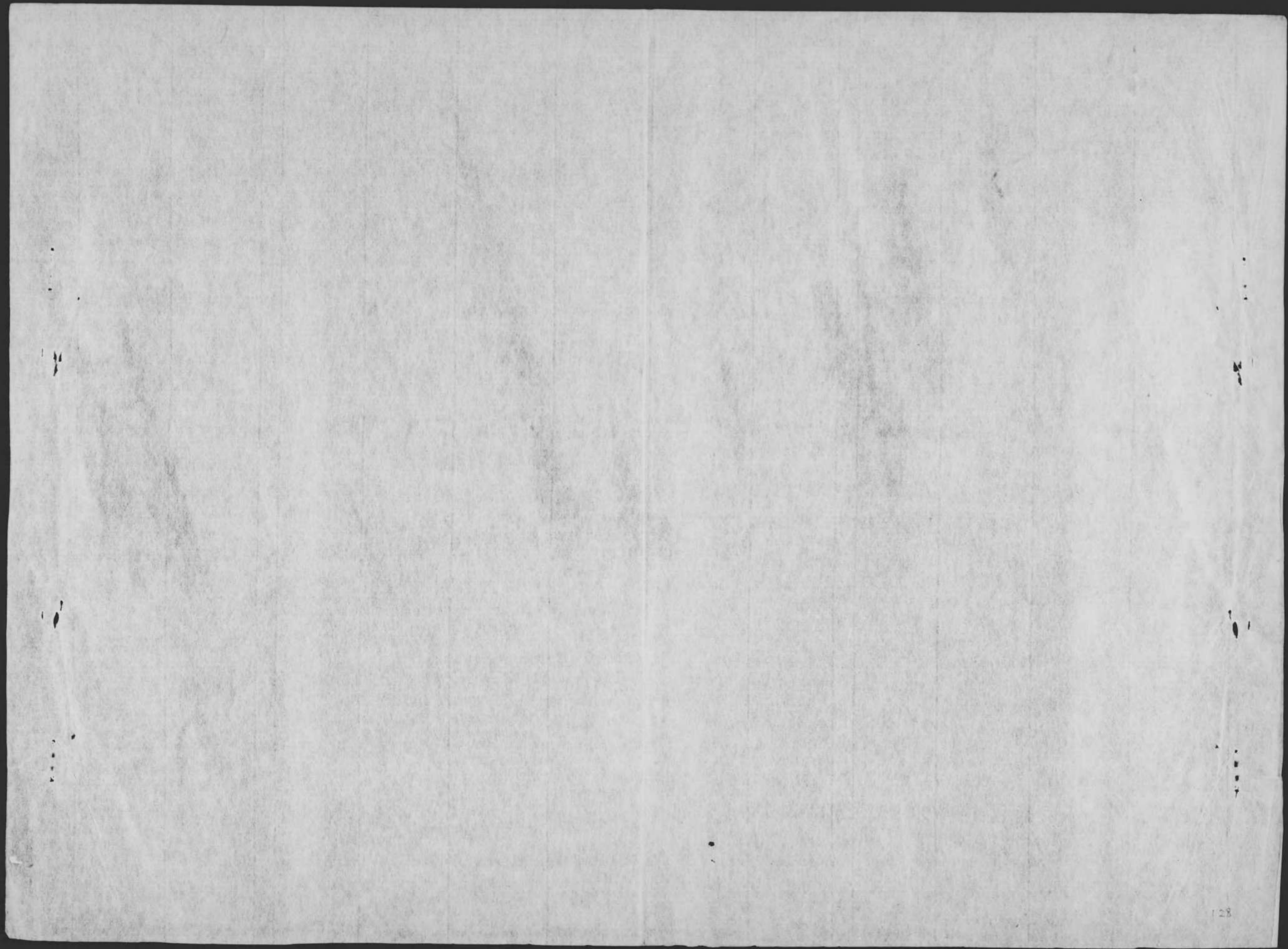
町 長 松 川 昌 藏

東北電燈株式會社

取締役社長 小 林 久 治

東北振興電力株式會社

社 長 横 山 助 成





覺

書

東北電燈株式會社
東北振興電力株式會社

覺 書

東北電燈株式會社（以下甲ト稱ス）ト東北振興電力株式會社（以下乙ト稱ス）トノ間ニ締結ニ係ル昭和十五年一月二十三日附電力需給契約（以下二者契約ト稱ス）及右兩者及一關町トノ間ニ締結ニ係ル昭和十五年一月二十三日附電力需給契約（以下三者契約ト稱ス）ニ附帶シ各契約ニ依ル需給電力量及最大電力量ノ計量ニ付甲乙間ニ協定スルコト左ノ如シ

一、三者契約ニ依ル需給電力量ノ甲乙間ノ需給電力量ニハ三者契約第六條所定ノ一關町ノ舊町變電所内施設積算電力計ノ計量値ヲトリ、二者契約ニ依ル需給電力量ノ甲乙間ノ需給電力量ニハ二者契約第六條第一項所定ノ甲ノ黒澤尻受電所内施設積算電力計ノ計量値ト右ノ舊町變電所内施設積算電力計ノ計量値トノ差ヲトルモノトス

最大需給電力量ノ決定ハ前項ノ計器ニ依リ前項ノ方法ニ準ジ行フモノトス

右覺書ノ體トシテ本書ニ通テ作成シ各自其ノ一通ヲ保有スルモノトス

昭和十五年一月二十三日

東北電燈株式會社

取締役社長 小林久治

東北振興電力株式會社

社長 横山助成